

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら棟)

事業所番号	0670400936		
法人名	株式会社 菊地組		
事業所名	グループホームやまぼうし		
所在地	山形県米沢市直江町1番5号		
自己評価作成日	平成26年1月9日	開設年月日	平成 16年 8月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは市の西側に位置し、目の前には公園・コミュニティーセンター・小学校が軒を連ね、休日には子供たちや家族連れで賑わいます。またホームと公園の間には桜並木が広がり、時間を見つけては散歩にかけつけると気分転換を図っております。ご利用者様も心身の老化が進み、ご家族様の意向を伺いながら個々人の人権を尊重し、ご利用者様が毎日笑顔で穏やかに過ごしていただけるよう心がけて支援させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 2月 6日	評価結果決定日	平成 26年 2月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域環境に恵まれた場所に立地し、小規模多機能型居宅介護事業所・高齢者協同住宅・山形県指定障害者福祉サービス事業所を併設し、当ホームは最初に開設され10年を迎えています。地域の一員として、道路やゴミステーションの清掃、冬季の除雪など地域行事への参加や園児、小、中高生との触れ合い、ボランティアの来訪等で日常的に人々と関わりながら、交流を図り地域に溶け込んでいます。毎年全職員から安全標語を募集し、選んだ一つを独自の理念として掲げ、法人理念と共に実践しています。毎月研修会を実施し発表会を行う等自己研鑽を重ね、利用者、家族等、地域から信頼されるグループホームとして尚一層の質向上を目指して取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を念頭におき、毎年職員自らがつくりあげた独自の理念「おもてなし、あなたの目となり、耳となり」を職員全員で共有し実践している。	職員が考案した標語から今年度は「おもてなし、あなたの目となり耳となり」をホームの理念とし、敬う心で接し支援させてもらう気持ちを大切に、利用者が安らげる場所となるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、清掃当番などにも積極的に参加し、地域交流に努めている。	地区行事への参加や法人内の夏祭りには家族等、住民など大勢の人達で賑やかに開催し利用者の笑顔に繋がっている。地域との交流を深め双方向的な関係づくりを図り、大きな支援の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加し、あるいは近隣の幼稚園、小学校、中学校等を招き交流を通じて認知症を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設側からの一方的な報告ではなく、地域運営推進会議を通じて家族や地域住民との多種多様な議論の場となれるよう心がけて会議を開催している。	会議は併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的に行っている。参加者からは防火安全対策に対する意見なども出され、地区消防団に訓練への参加依頼をしている。毎回議題に沿って開催しているが、今後、より活発にする為に会議の持ち方等を検討している。	より活発な運営推進会議に繋がるよう今後の取り組みに期待したい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者とはサービスの内容等も含め綿密な報告や相談を行いながら事業運営を行っている。	市担当者には事業所の取組みを細かく伝え、日頃から顔の見える関係づくりを図っている。地域包括支援センター主催の集まりへの参加や、市から生活保護者の依頼などもあり積極的に受け入れ協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束は高齢者虐待にもつながるということを全職員に指導したうえで、身体拘束をしないで済むようなケアの実践を図っている。	外部研修へ参加し伝達講習を行い具体的行為なども理解している。言葉の拘束などは接遇研修を徹底し、日々の声掛けに配慮している。行動パターンを把握しながら外出しそうな方には付き添い、自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	山形県主催の「高齢者虐待防止指導者養成研修会」に職員を派遣し、その研修内容を申し送り会議の場等を通じて伝達するようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から「成年後見制度」について質問・相談があった際にも的確な助言を行うようにしている。関係機関への調整も必要に応じて行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と同意をいただいた上で契約を締結している。契約解除後も懇切、丁寧に相談に応じるように心がけている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族等と個別にかかわる時間を持ち、何気ない会話のなかから意見や要望を伺い、全体会議で報告・検討され、運営に反映している。また、玄関への意見箱の設置、運営推進会議や手紙で要望等を把握する取り組みも行われている。	家族等へ担当職員が、毎月生活の様子を手紙にして利用表と一緒に送付している。今年度初めて家族アンケートを実施し、感謝の声も多く聞かれ、結果は運営推進会議や家族等にも報告をしている。意見・要望は全体会議で共有し迅速な対応に心がけている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に「やまぼうし運営会議」を開催し、職員の意見が代表者、幹部へ届くようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価に関しては明確な規程に基づいて行っている。特に実績が認められた職員に関しては昇任・昇格といった対応をとっている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じて積極的に山形県の研修に参加させている。その内容については会議の場などを通じて共有を図れるよう心がけている。	年度初めに職員一人ひとりの目標を決め、管理者は進捗状況を把握しながら育成に努めている、毎月実施される勉強会は、輪番制で内容を設定するなど学びの場として意識の高揚に繋げ、また、外部講師を招き接遇研修にも力を入れケアサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に1回程度米沢市内の事業者が集まり会議を開催している。様々な議題について議論している。	市内地域密着型の小規模多機能連絡協議会の集まりにも参加し交流を図っている。様々な情報交換しながら同業者全体で行政への働きかけなどを話し合い、質の向上を目指している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人・家族・関係者によるケアカンファを行い、本人の思いを受け入れ職員が共有し、新たな環境に馴染んでいただけるよう傾聴するよう心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをうけ利用者様と家族の関係作りに努め、出来る限り家族の要望に応えられよう連絡を取り合い信頼関係に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族から「一番思っていること。」「何のために利用されるのか。」を伺い、相談に応じ検討・対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員自らが相手の立場になって、本人が持つ残存能力を日々の生活の中で活用し、役割意識をもって生活できるよう支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況に配慮し、可能な範囲での協力をお願いしながらともに支えあえるよう心がけている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は積極的に受け入れている。また、利用者様の思い出の場所等があれば一緒に外出できる機会をもうけられるよう心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係構築のため職員が間に入り、お互い関わりあえるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの連絡・問い合わせ等については今まで同様対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にアセスメントを実施し、利用者様、ご家族等から一人ひとりの暮らしへの思いや意向を聞き取り、その後も受け持ち担当を中心に継続的に把握し、介護計画にも盛り込み個別支援計画に取り組んでいる。把握困難な場合には、家族関係者等から話をきいたり利用者の言動や表情からくみとれるようにしている。	アセスメントを基に一人ひとりの暮らし方や意向の把握に努め、思いに沿えるよう支援している。困難な場合は関わりの中で表情やしぐさから汲み取り気づきを記録に残し、申し送りやケア会議などで共有しながらプランに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のマネジメントで情報収集し把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報交換にて利用者様の現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族等の思いを反映し、職員の意見・情報・気づきを取り入れたケア会議が開催されている。月1回のモニタリングと3ヶ月に1回状態変化の見直しが行われ、利用者本位の介護計画を作成している。	生活歴などの情報から本人の思いや趣味、得意な事などを取り入れ、担当職員を中心に全員でカンファレンスを行い気づきを反映させている。毎月の詳細なモニタリングを実施し身体状況も踏まえ、楽しみながら生活が出来るよう個別の介護作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のケア会議で情報交換し職員間で情報を共有しながら実践している。また、変化に応じて計画を見直している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や小学校との交流、近くのスーパーへの買い物に出かけたりしながら社会と接触し、生きがいのある生活ができるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に受診できており、協力医療機関が行っている往診は全体の7割程度の利用者が利用している。通院介助は家族に積極的にお願いしているが状況によっては職員が同行している。	かかりつけ医には家族等が対応し、職員が同行することもある。また、協力医による2週間に1回の往診は多くの方が受診している。家族等から結果を聞き取りバイタルや身体状況を看護師から医師に伝え、職員は申し送りやノートで確認共有し、利用者の健康維持に努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や気づき等を看護師に報告・相談し適切な受診ができるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師・医療相談室と連携し、相談しながら対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	状況変化に応じた家族等との話し合いを繰り返し行いながら、事業所として出来ることの「看取り指針」を作成している。「医療連携体制」も整備しており、終末期に向けた支援を行う体制をとっている。	終末期に向けた指針を整備し、状態変化に応じ家族等とは繰り返し話し合いを持ち理解を得ている。医療が必要な時は医師から家族等に説明してもらい、対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による心肺蘇生訓練を受けており、緊急時対応マニュアルを作成し、利用者の急変や事故に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、消防分団と協力し「米沢市消防演習」のメイン会場の1つとして避難訓練を実施した。町内会や地域分団との協力体制を構築している。	米沢市総合消防演習のメイン会場となった経験を活かし、定期避難訓練では町内会や消防分団の協力を得て災害に対処できるようにしている。昼夜を問わず、通報・非常口や避難通路の確保・緊急召集・誘導等の訓練を職員で取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを大切に考えて、その人らしさが出せるように自己決定しやすい声がけを全職員で心がけ、対応に配慮している。	日々の関わりの中で、家族の大事な人をお世話しているとの思いを職員は共有しケアに繋げている。利用者の話を言葉を傾聴し、人格を尊重しながら、その人がしたいことを最後までしてもらう事を大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いいただく度に声がけ・説明し、納得していただいた上でおこなって頂くよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位のペースを大切にし、起床時間を遅らせたり、その日の状態に応じて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後の整容支援、洋服選び等アドバイスしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化が進む中で、自家野菜作りは職員と一緒にやっている。収穫時には取れたての食材を提供している。毎週1回利用者様の要望をお聞きしメニューを決めている。食事の準備や後片付けに関しては重度化に伴い職員主体で行わざるを得ない状況である。	調理の様子が見えるオープンキッチンで、畑で作ったナス・トマト・菊などを取り入れ食事を提供している。毎週日曜日は利用者の要望に応え、コロッケ作りや焼きそば・うどんなど、買い出しや調理を手伝ったりしながら好みの食事を味わっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記入し、極端に少ない場合は他のもので確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアにて清潔保持に努めている。口腔ケアは習慣化され、声かけで行動されるようになっている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ほとんどの利用者は訴えにて、その都度トイレ誘導を行い、ほかには紙パンツ対応である。プライバシーの配慮から職員全員で共有しあい「トイレ内で少しの時間でも一人ですごしてもらおう。」見守りながら個別の排泄支援が出来ている。	チェック表に頼らず、本人の訴え・サインを見逃す事なくトイレ誘導を行っている。トイレでは時間をかけてでも一人で出来るよう見守りながら、自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、-2日でポカリ、-3日で冷たい牛乳で対応し、個人的にヤクルトや下剤で対応されている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の意向に沿った入浴を心がけており、生活習慣や希望、日々の体調等を全員で把握しながら、拒否の強い方には入浴が負担感とならないよう好みを伺い、入浴剤等で一人ひとりにあった支援をしている。	希望や体調を考慮し、身体の清潔感を保ち、浴槽の中でリラックス出来るよう1対1の介助を行い、安全に気を配りながら入浴を楽しんでもらっている。嫌がる人や困難な方には無理の無いように入浴剤や介助方法を変えたりして工夫しながらその人にあわせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足の浮腫のある方にはソファでくつろがれる時も足を若干あげていただいたり、就寝時にはパジャマに着替えて安眠していただけるよう声かけ支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人が間違いなく服薬できるよう支援している。また、症状の変化等を看護師に報告するとともに受診時に相談している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴にあわせた役割分担表を持つことで生活にメリハリができ、生活に張り合いを持つことを目的としている。伝統料理の作り方など伺いながら交流を図り気分転換につなげていく。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅からの延長線上と捉えたときストレスを蓄積させないためにも、行きたいところへいつでも出かけられるコースを年間行事に取り入れている。団体での外出に限らず個々においても近辺への買い物や散歩も大いに取り入れた外出支援となっている。	行きたいところを年間行事に取り入れ、季節の花(ダリア・アヤメ・つつじ等)の観賞や上杉公園などへ外出し、気分転換を図っている。お茶会時に希望を聞き、買い物や散歩など個別支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や用途に応じ預かり金より「お小遣い」をだしていただき、お金を自ら所持し使ってもらったためのお手伝いをしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話は自由に使って頂けるよう配慮している。知人からの手紙も届けられ返事の声がけ支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がいつでもくつろげるようソファを配置するなど工夫している。また、四季を通じて夏場の流しソーメンやバーベキュー、芋煮会等でテラスを活用している。	広々とした2つのユニットのホールは行き来することが出来、創作品が飾られた中で利用者が好きな席やソファでゆっくり寛げる空間になっている。春の桜を見ながらテラスで過ごしたり、イベントを楽しんでいる様子が見える。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはいたるところにソファを配置し冬でも光の入る場所にテーブルと椅子が置かれ、自由に利用できるようになっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者、家族等の思いが込められた「のれん」をかけており、部屋の中の雰囲気は家具類の配置もそれぞれ違い、個性が表れた第二の我が家といった感じになるよう心がけている。	一人ひとりの状態や好みに合わせ、ベッドの高さを調節したり、畳に布団を敷くなど安心できる居室づくりをしている。のれんや馴染みの物を持ち込み利用者が安らげる場所となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が利用者様一人ひとりの「できること」、「わかること。」を把握し、その人に合わせた声かけによりお手伝いいただき、生きがいを持って生活できるよう努めている。車椅子自乗や居座る際の障害物や危険防止に努めている。			